

【C年^{ねん}】

聖靈降臨後第十六主日^{せいれいこうりんごだい しゅじつ}

特定^{とくてい}二十一

憐^{あわ}れみ深い^{ふか}主^{しゅ}よ、どうかみ民^{たみ}を赦^{ゆる}し、平安^{へいあん}を与^{あた}え、その罪^{つみ}をことごとく清^{きよ}め、穏^{おだ}やかな心^{こころ}をもって主^{しゅ}に仕^{つか}えさせてください。主^{しゅ}イエス・キリストによってお願い^{ねが}いたします。

アーメン

司祭^{せいしや} 「聖書^{せいしょ}のみ言葉^{ことば}を聞きまししょう」

会衆は着席する。

旧約^{きゅうやく}聖書^{せいしょ}

朗読者^{ろうとくしや} 「旧約聖書はアモス書第六章一節から」

1 災^{わざ}いだ、シオンに安住^{あんじゅう}し
サマリアの山^{やま}で安逸^{あんいつ}をむさぼる者^{もの}らは。
諸国民^{しよこくみん}の頭^{かしら}である国^{くに}に君臨^{くんりん}し

イスラエルの家^{いえ}は彼^{かれ}らに従^{したが}っている。

2 カルネに赴^{おもむ}いて、よく見^みよ。

そこから、ハマト・ラバに行^いき

ペリシテ人のガトに下^{くだ}れ。

お前^{まえ}たちはこれらの王国^{おうこく}にまさっているか。

彼^{かれ}らの領土^{りょうど}は

3 お前^{まえ}たちの領土^{りょうど}より大^{おお}いか。

お前^{まえ}たちは災^{わざ}いの日^ひを遠^{とお}ざけようとして

不法^{ふぽう}による支配^{しはい}を引き寄^よせている。

4 お前^{まえ}たちは象牙^{ぞうげ}の寝台^{しんだい}に横^{よこ}たわり

長^{なが}いすに寝^ねそべり

羊^{ひつじ}の群^むれから小羊^{こひつじ}を取^とり

牛^{ぎゅう}舎^{しや}から子牛^{こしゅう}を取^とって宴^{えん}を開^{ひら}き

5 堅琴^{たてこ}の音^{おと}に合^あわせて歌^{うた}に興^{きよう}じ

ダビデのように樂器^{がっき}を考^{かんが}え出^だす。

6 大杯^{たいはい}でぶどう酒^{しゅ}を飲^のみ

最高^{さいこう}の香油^{こうゆ}を身^みに注^{そそ}ぐ。

しかし、ヨセフの破滅^{はめつ}に心^{こころ}を痛^{いた}めることがない。

7 それゆえ、今^{いま}や彼^{かれ}らは捕囚^{ほしゅう}の列^{れつ}の先頭^{せんとう}を行^いき

寝^ねそべって酒宴^{しゅえん}を樂^{たの}しむことはなくなる。

朗読者^{ろうとくしや} 「旧約聖書を終^おわります」

詩^し編^{へん}

腰掛けたままで、一節ずつ交互に唱える。

第一四六編 五く十節

- 5 ヤコブの神を助けとし＝主に希望をかける人は幸せ
6 神は天と地を造り、海とその中のあらゆるものを形造
7 リ＝とこしえにまことを示された
8 虐げられた人のために審きを行い＝飢え渴く人に
9 パンを恵み、捕らわれ人を解放される
10 主は見えない人の目を開き＝卑しめられている人を
11 高め、正しい人を愛される
12 主は他国から来ている人を守り＝身寄りのない子供
とやもめを支え、悪人の企てを碎かれる
13 主はとこしえに治められる＝シオンの神は代々に、
ハレルヤ

使徒書

朗読者 「使徒書はテモテへの手紙Ⅰ第六章十一節から」

- 11 い。正義、信心、信仰、愛、忍耐、柔和を追い求めなさい。
12 信仰の戦いを立派に戦い抜き、永遠の命を手に入れな

さい。命を得るために、あなたは神から召され、多くの証人の
の前で立派に信仰を表明したのです。13 万物に命をお与え
になる神の御前で、そして、ポンテイオ・ピラトの面前で立派
な宣言によって証しをなさったキリスト・イエスの御前で、
あなたに命じます。14 わたしたちの主イエス・キリストが
再び来られるときまで、おちどなく、非難されないように、
この掟を守りなさい。15 神は、定められた時にキリストを
現しにくださいます。神は、祝福に満ちた唯一の主権者、王
の王、主の主、16 唯一の不死の存在、近寄り難い光の中に住
まわれる方、だれ一人見たことがなく、見るこのできない方
です。この神に誉れと永遠の支配がありますように、アーメ
ン。

17 この世で富んでいる人々に命じなさい。高慢にならず、
不確かな富に望みを置くのではなく、わたしたちにすべての
ものを豊かに与えて楽しませてくださる神に望みを置くよう
に。18 善を行い、良い行いに富み、物惜しみをせず、喜
んで分け与えるように。19 眞の命を得るために、未来に備
えて自分のために堅固な基礎を築くようにと。

朗読者 「使徒書を終わります。」

一同立つ。
ここで聖歌を歌う。

福音書

司祭 「主は皆さんとともに」

会衆 「また、あなたとともに」

司祭 「聖ルカによる福音書第十六章十九節以下に記され

た主イエス・キリストの福音。

主に栄光」

会衆 「主に栄光がありますように」

19 「ある金持ちがいた。いつも紫の衣や柔らかい麻布を着て、毎日ぜいたくに遊び暮らしていた。20 この金持ちの門前に、ラザロというできものだらけの貧しい人が横たわり、21 その食卓から落ちる物で腹を満たしたいものだと思っていた。犬もやって来ては、そのできものをなめた。22 やがて、この貧しい人は死んで、天使たちによつて宴席に

いるアブラハムのすぐそばに連れて行かれた。金持ちも死んで葬られた。23 そして、金持ちは陰府でさいなまれながら目を上げると、宴席でアブラハムとそのすぐそばにいるラザロとが、はるかかなたに見えた。24 そこで、大声で言った。『父アブラハムよ、わたしを憐れんでください。ラザロをよこして、指先を水に浸し、わたしの舌を冷やさせてください。わたしはこの炎の中でもだえ苦しんでいます。』25 しかし、アブラハムは言った。『子よ、思い出してみてくださいがよい。お前は生きている間に良いものをもらっていたが、ラザロは反対に悪いものをもらっていた。今は、ここで彼は慰められ、お前

はもだえ苦しむのだ。26 そればかりか、わたしたちとお前たちの間には大きな淵があつて、ここからお前たちの方へ渡るうとしてもできないし、そこからわたしたちの方に越えて来ることもしかない。』27 金持ちは言った。『父よ、ではお願いです。わたしの父親の家にラザロを遣わしてください。28 わたしには兄弟が五人います。あの者たちまで、こんな苦しい場所に来ることのないように、よく言い聞かせてください。』29 しかし、アブラハムは言った。『お前の兄弟たちにはモーセと預言者がいる。彼らに耳を傾けるがよい。』30 金持ちは言った。『いいえ、父アブラハムよ、もし、死んだ者の中からだれかが兄弟のところに行つてやれば、悔い改めるでしょう。』31 アブラハムは言った。『もし、モーセと預言者に耳を傾けないのなら、たとえ死者の中から生き返る者があつても、その言うことを聞き入れはしないだろう。』

司祭 「主に感謝」

会衆 「主に感謝します」